

総合人文科学研究センター研究部門
現代社会における「想像力」の総合的研究

2017 年度第 3 回研究会の報告

日時：2017 年 10 月 20 日（金）18 時 15 分から 19 時 45 分
会場：戸山キャンパス 33 号館 16 階、第 10 会議室

「想像力」研究 2017 年度第 3 回研究会は公開で行われ、10 名の参会者を得ることができた。話題提供は山田真茂留によるもので、発題のタイトルは「われわれ」を超えて——想像力の翼とその功罪」であった。この報告は「社会関係資本の光と影」（『学術の動向』2017 年 9 月号／4 か月後に WEB 公開予定）をベースとしている。

発題において中心的なテーマとなったのは、「われわれ」という想像力の働かせ方の功罪についてである。「われわれ」観念の強調は、論理的・経験的に「彼ら」の創出とその肥大化をもたらしてしまうため、多くの人々のうちに強い結束が醸成されるとともに、諸々の集合体間に深甚な分断が生まれることにもなる。報告では、さまざまなテロ事件後に発せられた政治家たちの声明における連帯の賞揚の問題、多文化主義の理念と実態の乖離の問題、民族的・文化的・階層的な居住隔離と近隣信頼の問題などが、具体的なケースを交えて論じられ、また過剰な「われわれ」意識から離れる必要性についての示唆もなされた。

発題に引き続いて行われた討議では、当人たちが理性的な対話を繰り広げ、互いに納得したうえで民族的な居住隔離を選んだ場合、それでもこれを相互の不寛容として非難し得るのかどうかという問題や、民族的・文化的・階層的に等質な居住空間で近隣信頼や人間信頼の度合いが高くなっているケースにおいて、その信頼の質はいかなるものなのかという問題、そして東西冷戦が終わりコスモポリタンな世界がようやく実現したと思いきや、その後一つの大きな民主社会が実現するどころか、世界の至るところで分断ばかりが顕在化しているのはどういったメカニズムによるのかという問題など、非常に刺激的な問題提起の数々がなされた。これらはいずれも、今日のグローバルな多文化世界において日々考究を深めていくべき、きわめて重要な課題とすることができよう。（山田記）